過去問題集

も　く　じ

◎ソルフェージュの勉強方法について…… 18

旋律聴音
第 101 回 …… 21
第 102 回 …… 22
第 103 回 …… 23

新曲視唱
第 101 回 …… 24
第 102 回 …… 25
第 103 回 …… 26

◎楽典の勉強方法について…… 28

楽典（問題）
第 101 回 …… 30
第 102 回 …… 33
第 103 回 …… 36

楽典（模範解答）
第 101 回 …… 39
第 102 回 …… 40
第 103 回 …… 41

ソルフェージュの勉強方法について

楽譜の正しい読み書きは、ぜひ大学入学前に身に付けておきたい能力です。音楽基礎科目認定テストは、専門的な音楽の勉強に必要な音感が一定のレベルに達しているかどうかを見ます。具体的には、聴音では音を聴いて、それを「楽譜に書き表す能力」を、新曲視唱では楽譜を正しく読み「歌い、表現する能力」を見ます。正しい音感を身に付けて、「音を聴いて歌うことが出来れば、楽譜に書き表せる」ことを目標に練習することが大切です。

⊙音楽基礎科目認定テストのグレード別ポイント

グレード1	**音階固有音および易しい変化音による平易なメロディーです。** やさしい変化音とは、刺繍音（ししゅうおん）（補助音とも呼びます）に付く変化音（♯やb）のことです。刺繍音とは、ソーファ♯ーソのように同じ音の間にはさまれた２度下（または上）の音のことです。全音（長２度）と半音（短２度）の違いを聴き分け、聴音では臨時記号を忘れずに書いてください。グレード１ではC dur（ハ長調）だけなので、音階を正しく歌えるようにして、さらにそれらを聴き分けられるよう練習をしてください。拍子は４分の４拍子と４分の３拍子のみですから、４分音符を基本拍として、正確に拍が打てるようにしましょう。
グレード2	**音階固有音および易しい変化音によるメロディーです。** グレード２では課題の調性が、C dur（ハ長調）に加えて、G dur（ト長調）、F dur（ヘ長調）、a moll（イ短調）になります。グレード１と同じように、新しい調性の音階を正しく歌えるようにし、さらにそれらを聴き分けることが必要です。また、a moll（イ短調）では、和声短音階・旋律短音階において臨時記号が使われるので注意しましょう。拍子は４分の４拍子と４分の３拍子に新しく８分の６拍子が加わり、さらに、グレード１のリズムに加えていくつかのリズム要素が増えます。また、８分の６拍子は、８分音符３つ分の付点４分音符を基本拍とした２拍子を感じて練習してください。８分の６拍子特有のリズムパターンがあるので、聴音では、聴いたリズムがどのような記譜になるのか判断できるよう練習してください。
グレード3	**属調・下属調の属七の和音などによる変化音が加わります。** グレード１・２では刺繍音（補助音）としての変化音がポイントでしたが、グレード３では属調や下属調の属七の和音として出てくる変化音が出てきます。具体的にはC dur（ハ長調）の中に属調のG dur（ト長調）の音や、下属調のF dur（ヘ長調）の音が出てきます。新しく加わる調性のD dur（ニ長調）、B dur（変ロ長調）、e moll（ホ短調）、d moll（ニ短調）やそれぞれの属調、下属調の音がすぐに判断できるようにしましょう。短調の場合は属調や下属調の導音としての変化音も加わるので、臨時記号の多い楽譜になります。書かれた臨時記号の意味を正しく理解して歌ったり、書いたりする必要があります。

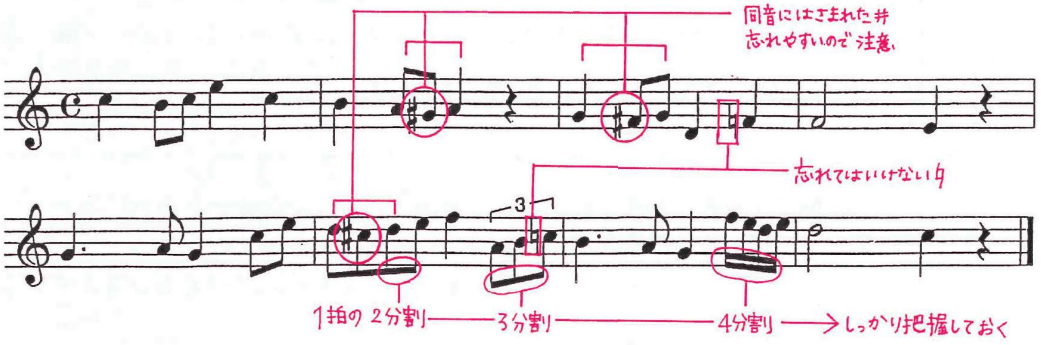
■ 旋律聴音　解説

グレード1

ハ長調

$\frac{4}{4}$

8小節

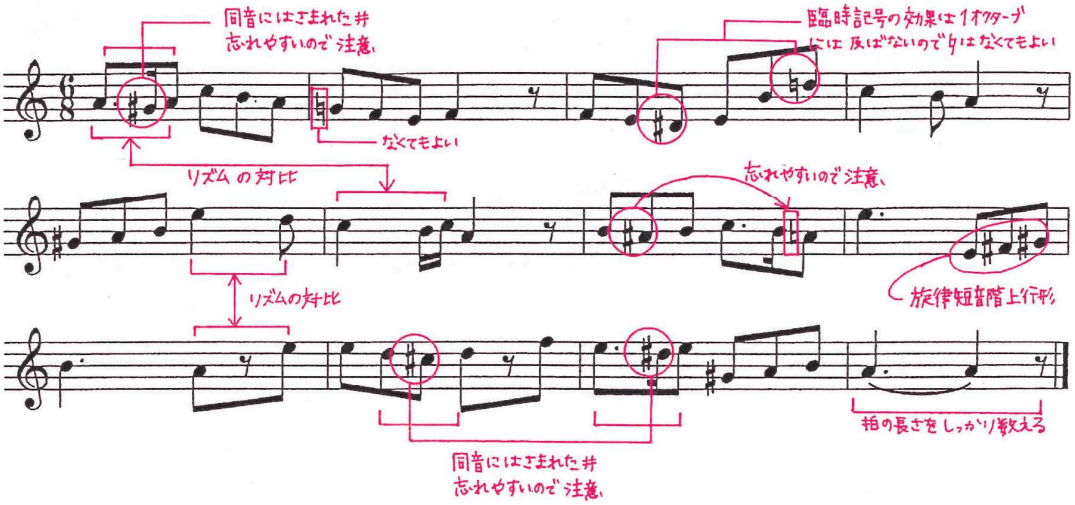


グレード2

イ短調

$\frac{6}{8}$

12小節

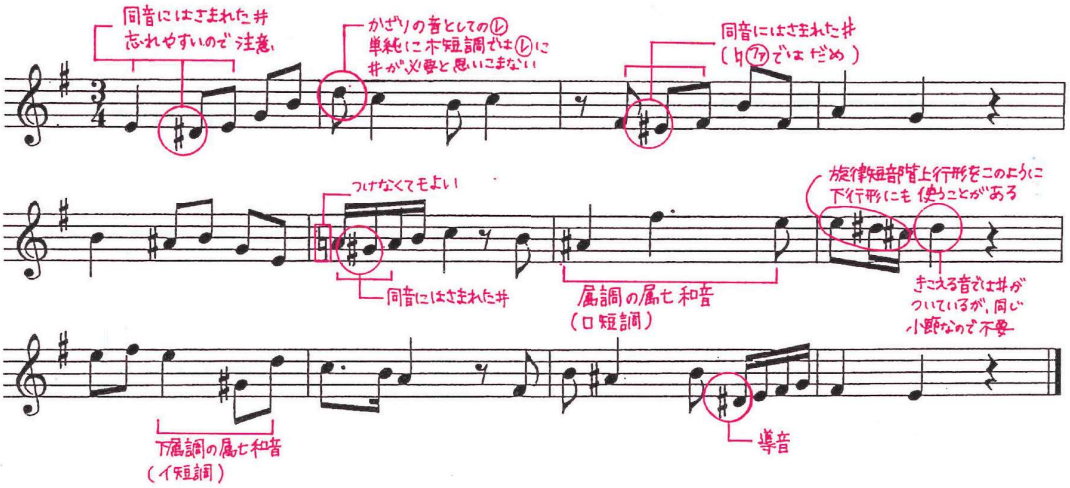


グレード3

ホ短調

$\frac{3}{4}$

12小節



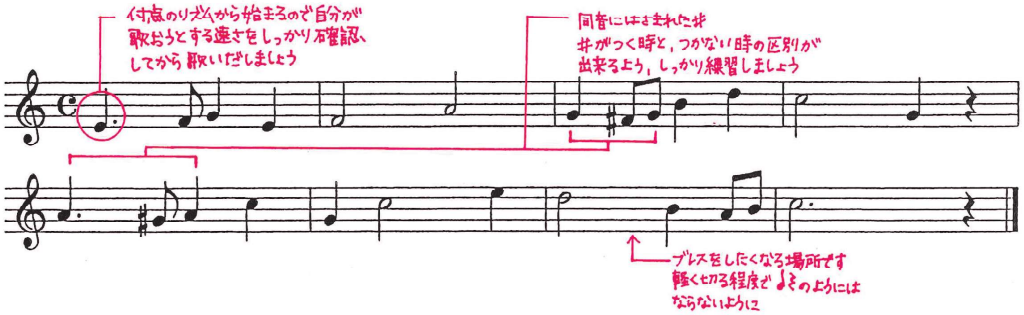
■　新曲視唱　解説

グレード1

ハ長調

$\frac{4}{4}$

8小節

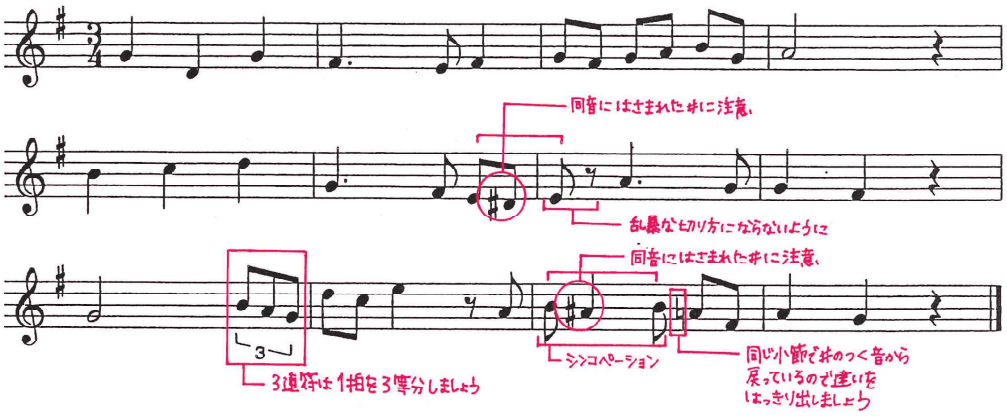


グレード2

ト長調

$\frac{3}{4}$

12小節

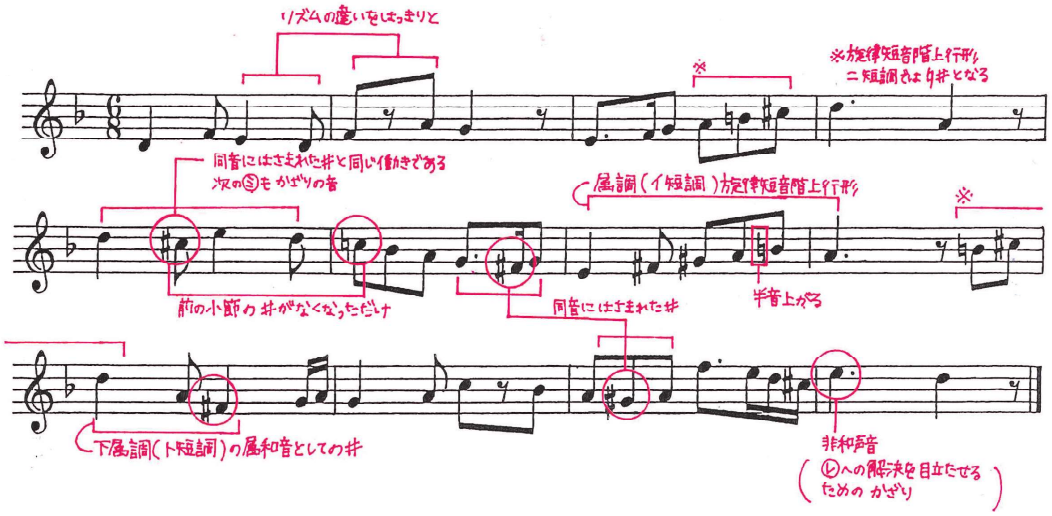


グレード3

二短調

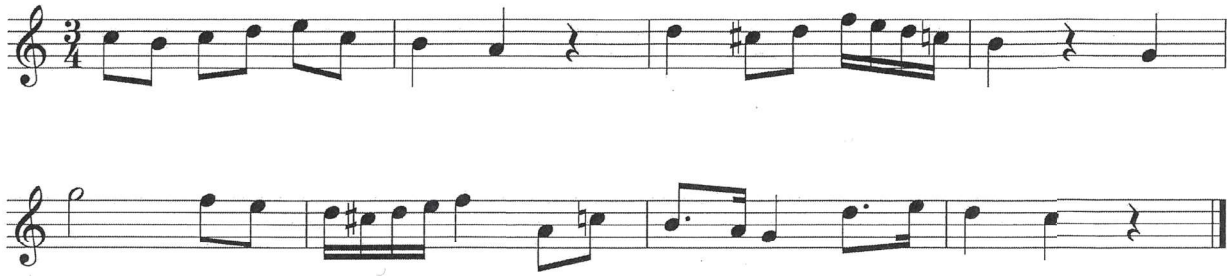
$\frac{6}{8}$

12小節

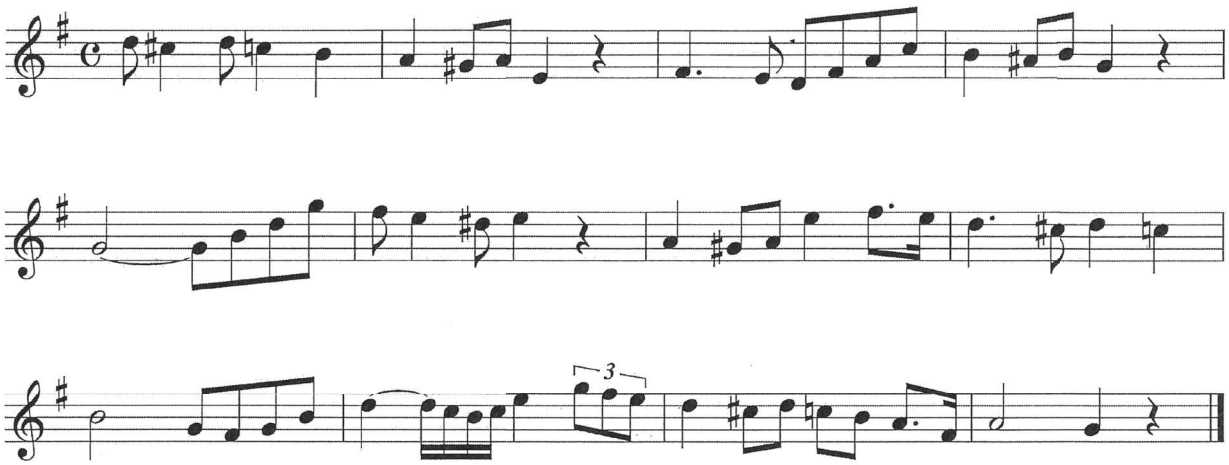


第 101 回　　－旋律聴音－

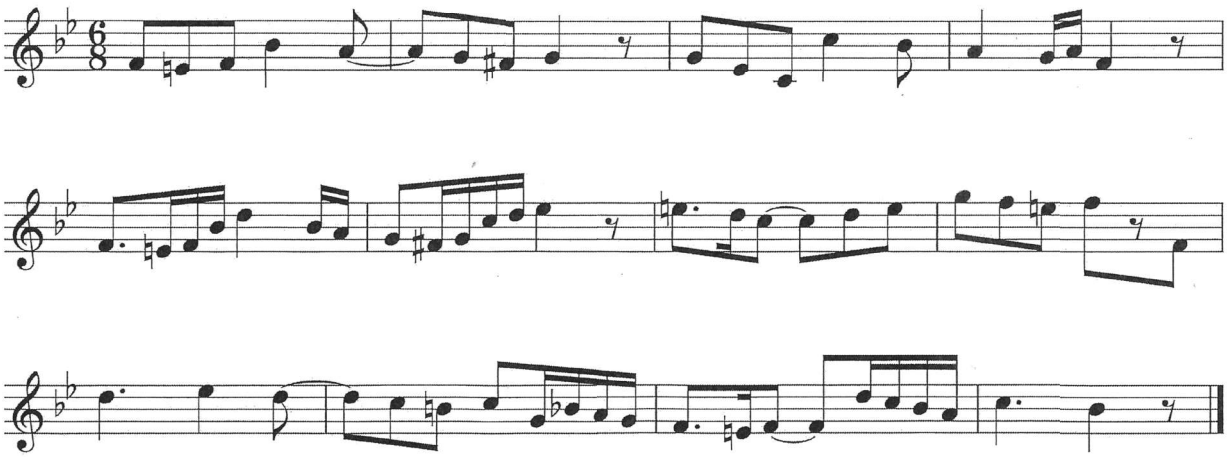
グレード 1　ハ長調　$\frac{3}{4}$拍子　8 小節



グレード 2　ト長調　$\frac{4}{4}$拍子　12 小節

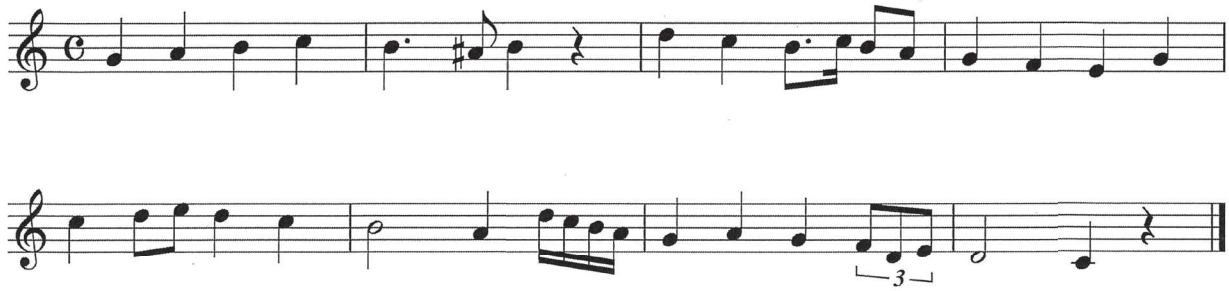


グレード 3　変ロ長調　$\frac{6}{8}$拍子　12 小節

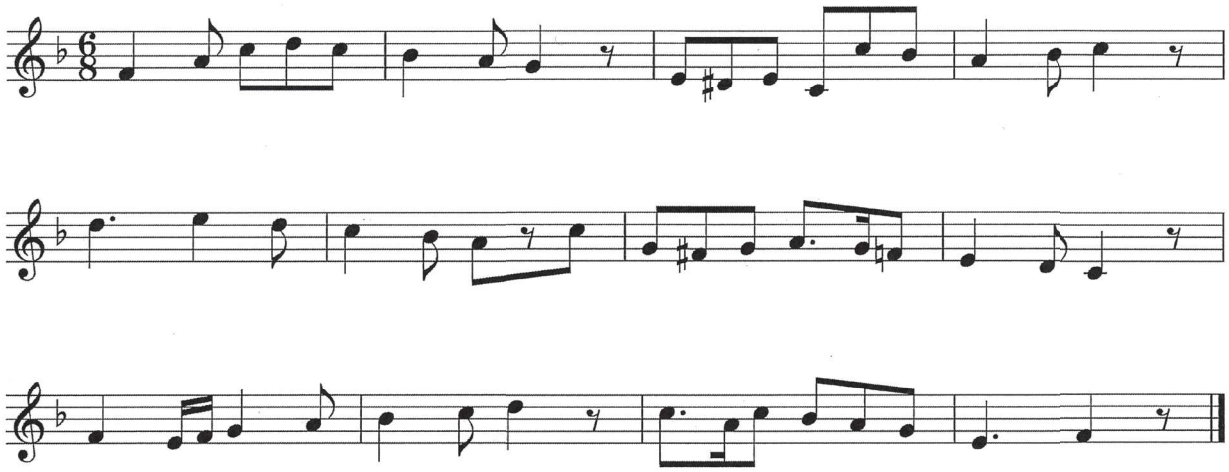


第 102 回　　－旋律聴音－

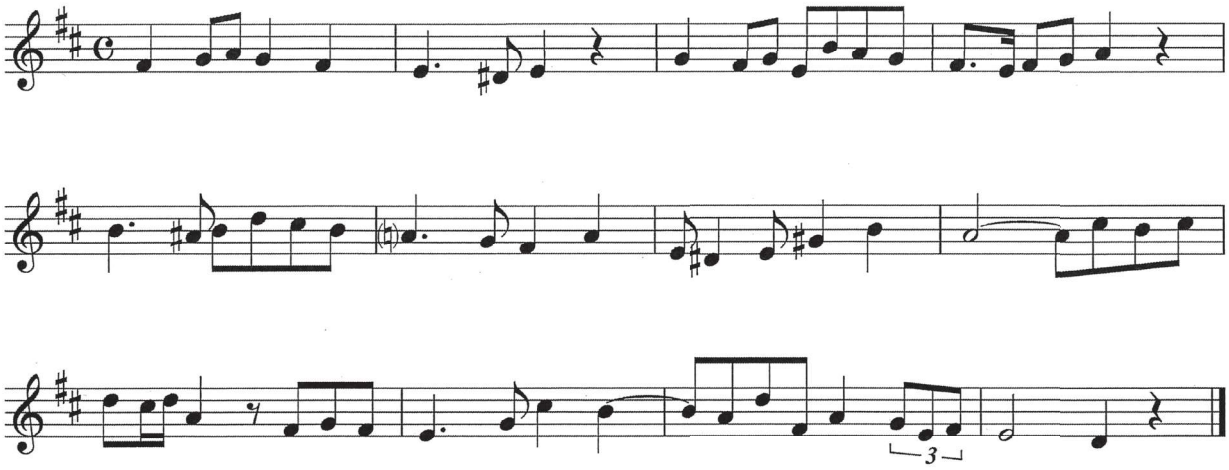
グレード 1　ハ長調　$\frac{4}{4}$拍子　8 小節



グレード 2　ヘ短調　$\frac{6}{8}$拍子　12 小節

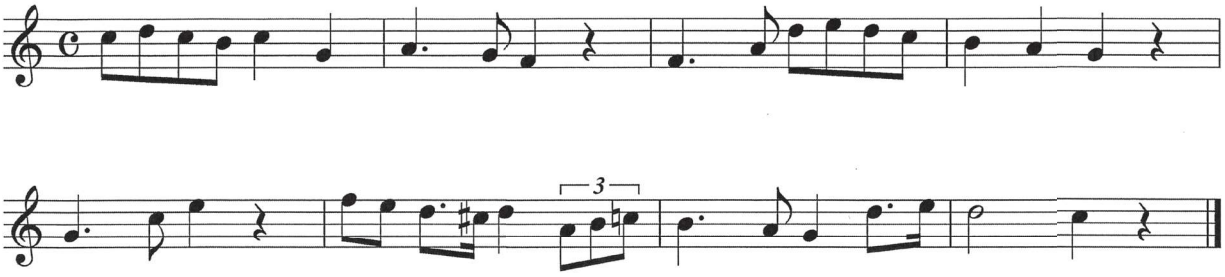


グレード 3　ニ長調　$\frac{4}{4}$拍子　12 小節

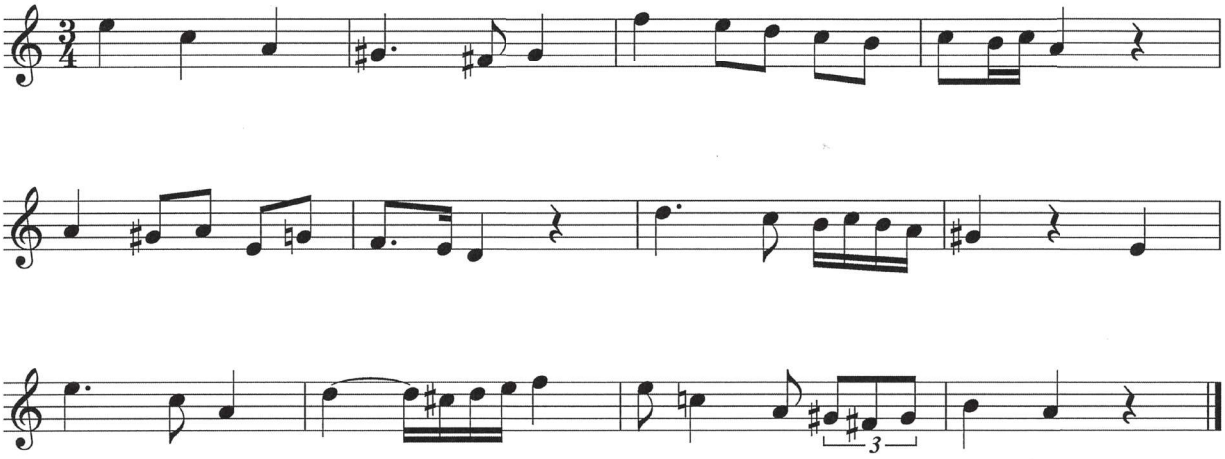


第 103 回　　－旋律聴音－

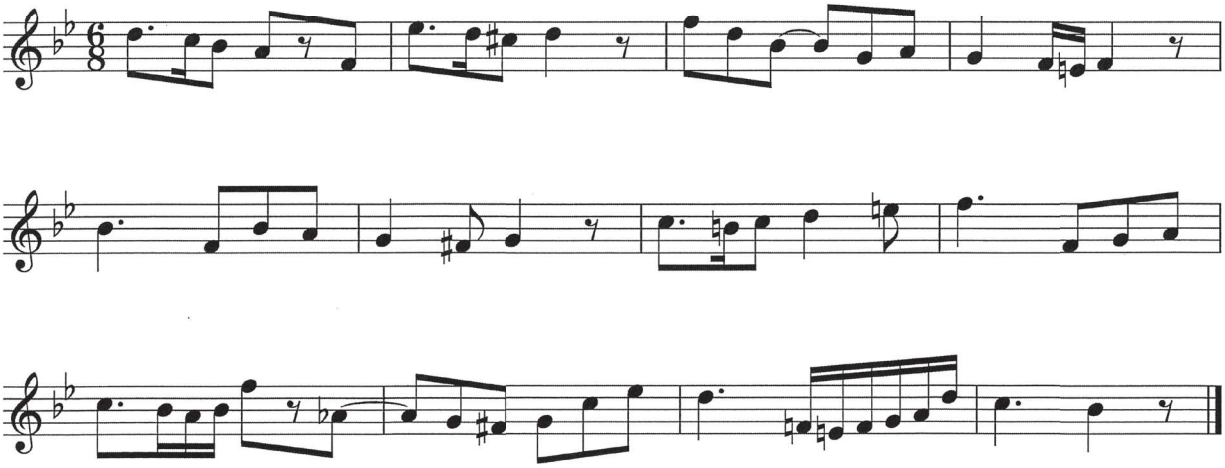
グレード 1　ハ長調　$\frac{4}{4}$拍子　8 小節



グレード 2　イ短調　$\frac{3}{4}$拍子　12 小節

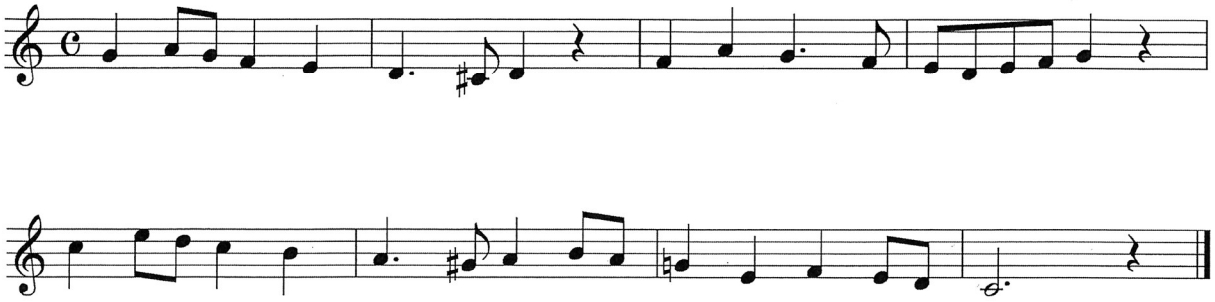


グレード 3　変ロ長調　$\frac{6}{8}$拍子　12 小節

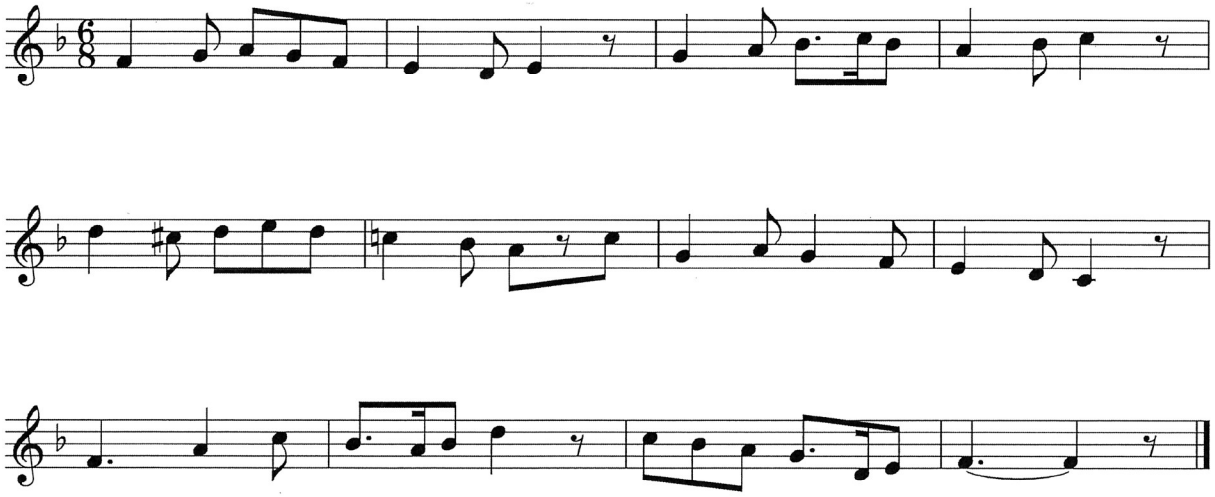


第 101 回　　―新曲視唱―

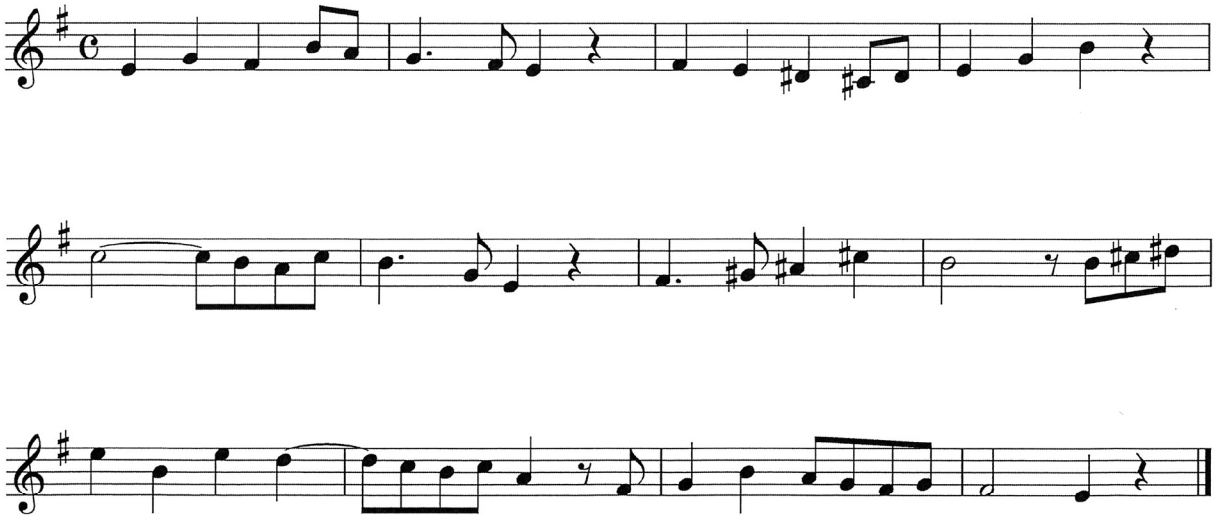
グレード 1



グレード 2

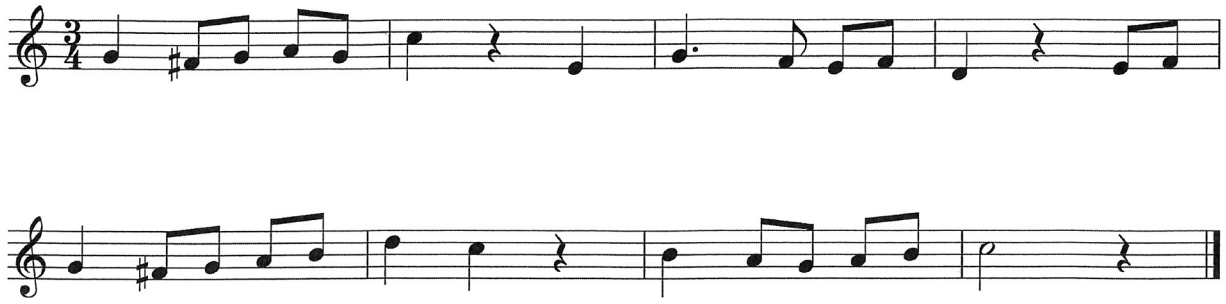


グレード 3

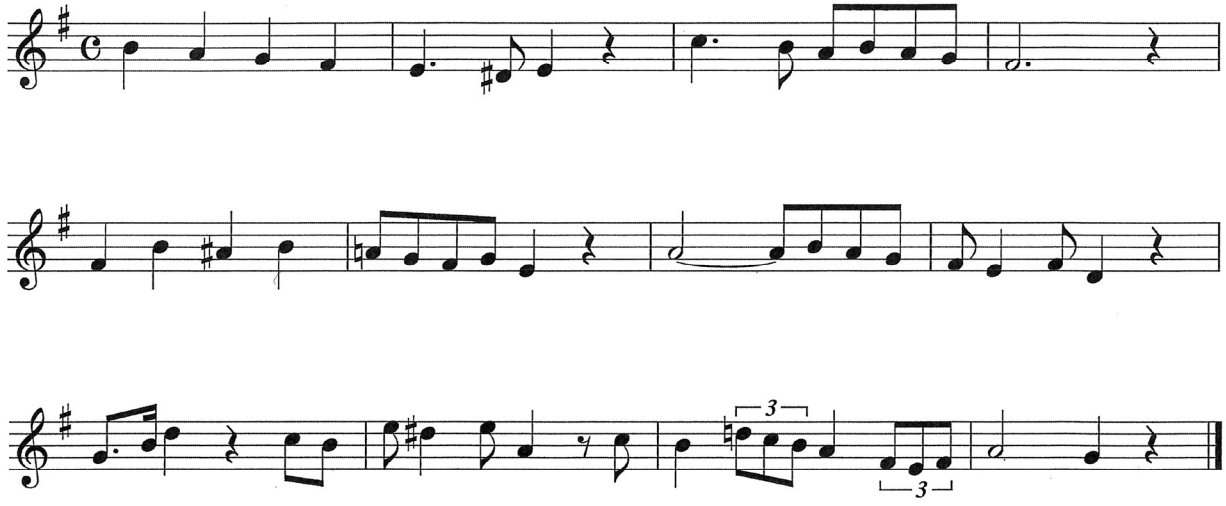


第 102 回　　－新曲視唱－

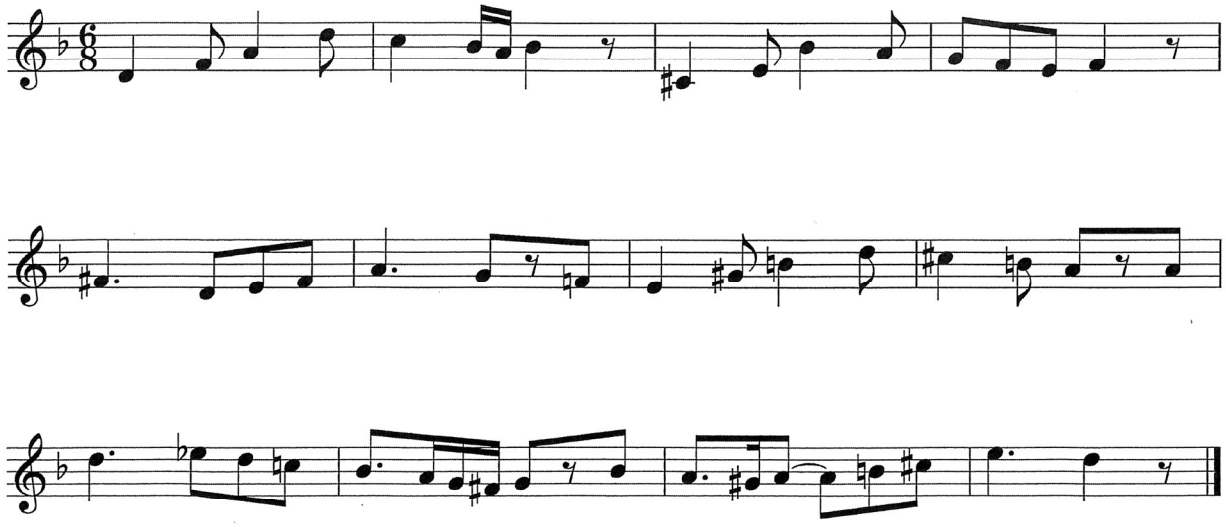
グレード 1



グレード 2

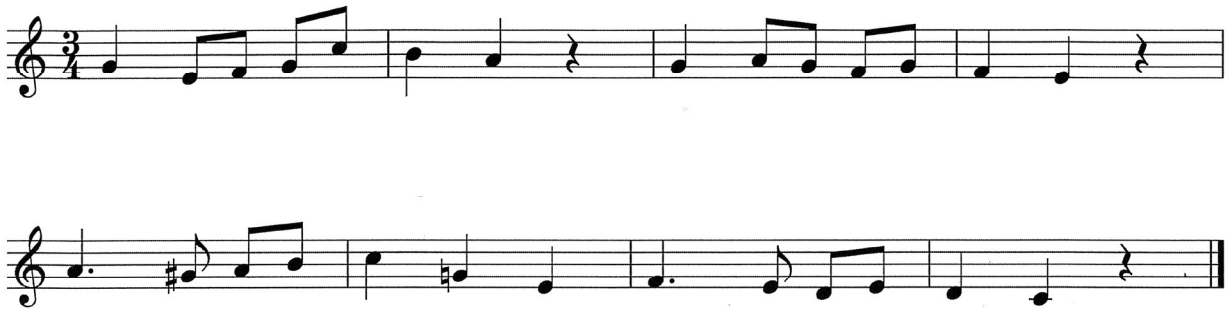


グレード 3

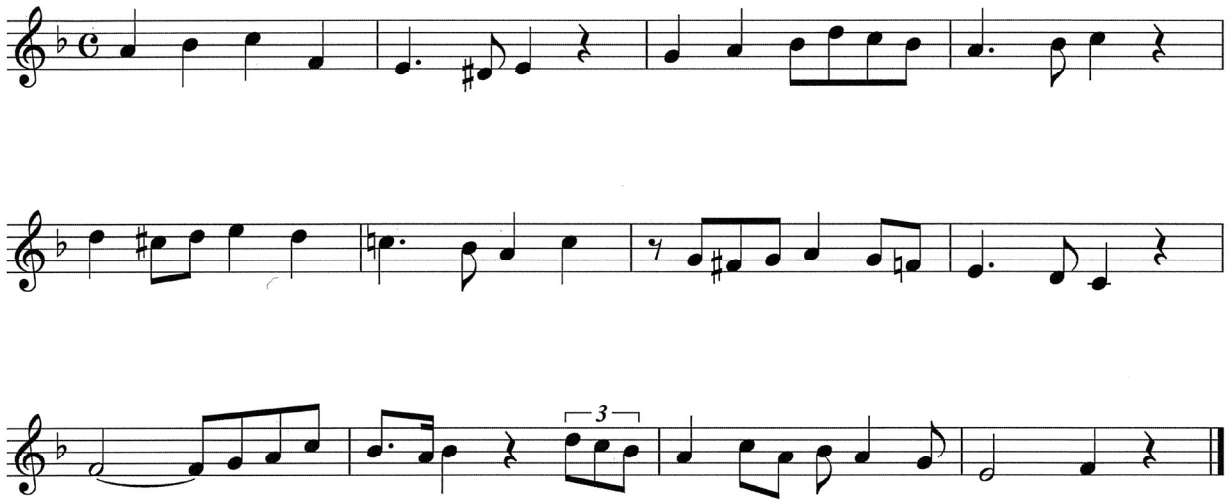


第 103 回　　－新曲視唱－

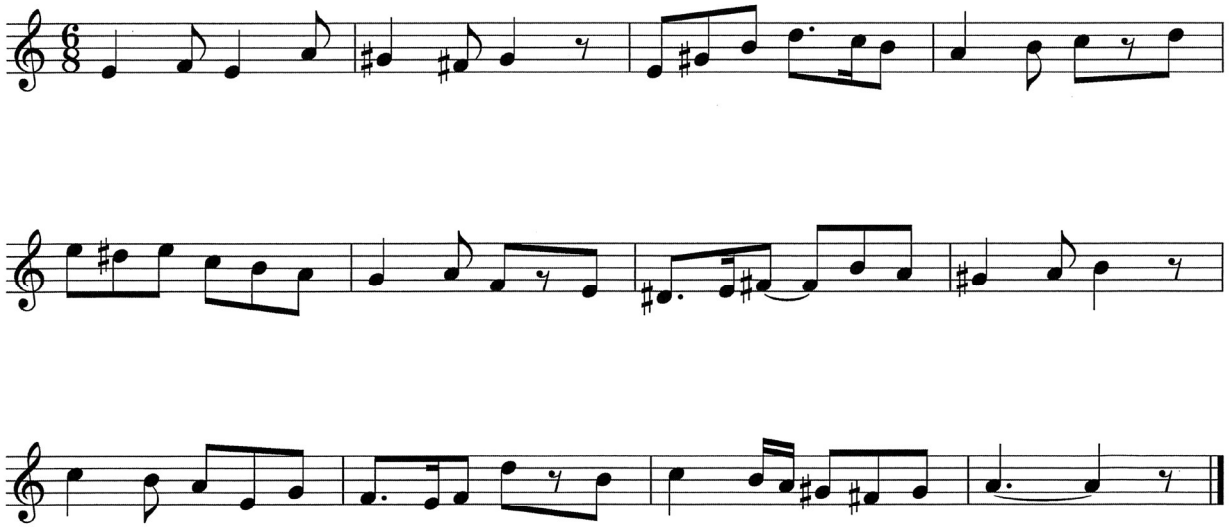
グレード 1



グレード 2



グレード 3



楽典の勉強方法について

音楽を学ぶ にあたっては、どのような種類の音楽であっても、その音楽の基礎的な部分の仕組みを理解しておくことが重要です。

そのためには、まず「楽典」という音楽の最も基礎的な理論の内容を理解し把握することから始めなければなりません。楽典は決して理論のための理論として存在しているわけではありません。どのような理論であっても、理論は音楽と共にあって、その内側を支えています。したがって、楽典の学習は、本来、演奏やレッスン等を通じて音楽とともに自然な形で理解され、習熟の度合いが深められるべきものなのです。

しかし入学者選抜の科目としては、本来の自然な学習形態から離れて、ペーパーテストの形をとらざるを得ません。それでも、楽典の試験問題として、実際の楽曲に基づいて出題されることが多いのは、楽典を理論として孤立させないで、できるだけ楽曲に即した事柄を尋ねたいという出題者の意図の表れのように思われます。試験問題への対応として、解説書や問題集から得られた楽典の知識についても、時間はかかっても、実際の音楽と結びつけ、生きた理論とするための努力が必要です。楽典の勉強は、音楽の仕組みを理解するために、また、自分の音楽を構築していくために是非とも必要なものですから、どうしても知りたい、理解したいという強い欲求をもって、勉強していただきたいと思います。

楽典の勉強方法として、まず、**テキスト***の理論的な部分を理解することに時間をかけることを勧めます。この勉強をなおざりにして、練習問題に次々と挑戦していくやり方は、決して効率のよい学習方法ではありません。楽典に自信がない人には、特に「音程」の項目から入念に復習することを勧めます。音程は音楽的な理論のすべてに関連する重要な基礎となるものですから、単に理解しているだけにとどまらず、反射的に音程を読み、記譜することができ、また音として表現できるようになるまで繰り返し練習することが大切です。このような努力の積み重ねが、やがては楽典の総合的な理解につながります。たとえば問題の実施に際して、確実な理解をともなって出した答えと、偶然に見つけた答えとでは、仮にどちらも正解であったとしても、音楽的な基礎力においては大きな差となります。重ねて、テキストの内容の徹底した理解に努めることを勧めます。

次に、実際に **練習問題** にあたってみて、設問のされ方、種類や傾向などについても知っておくことが必要です。出題の仕方は多少異なりますので、いろいろなケースに慣れておくことも大切です。理論に関する説明や解説を精読して、ある程度の理解が得られたならば、その段階にふさわしいテキスト本文中の練習問題や、それに該当する他の問題を解いてみて、もし、不足している学習上の事柄が見つかれば、テキストを読み返し、より深い理解に努めてください。その上で再び練習問題に挑戦したり、場合によっては、実施済みの問題に関しても再検討してみることを勧めます。

以上のような過程を幾度も反復することが、楽典の徹底した理解につながります。このようにして、ある程度の理解が得られたならば、次の段階として、応用性の高い問題や実際の試験問題に挑戦し、**真の実力** を養うことが、無理のない形での楽典攻略法になると思います。

次に、この冊子の**問題集そのものの勉強方法** について以下の方法を勧めます。

まず、日頃接している楽譜を注意深くていねいに読み込む習慣を身に付けてください。

［課題Ⅰ］ に関しては、「明解新楽典」の前編を前述の方法で学習してください。また、その中で出題される音楽史（音楽基礎知識）については、「音楽基礎科目認定テスト実施要項」に掲載されている出題範囲を充分に理解してください。

［課題Ⅱ］ は鍵盤図を基にした出題が中心です。音程、音階、和音などについて応用性の高い問題が扱われています。これに対応するには、「異名同音的転換」の理解と習熟が何よりも要求されます。そのためにはテキスト後編の異名同音的音程や異名同和音などの項目を徹底して理解するように努めてください。また、調の関係や和音の響き（長三和音・短三和音・・・）や調判定などに関する問題も含まれます。困難な問題には繰り返し挑戦し、正解に到達できるまでがんばってください。

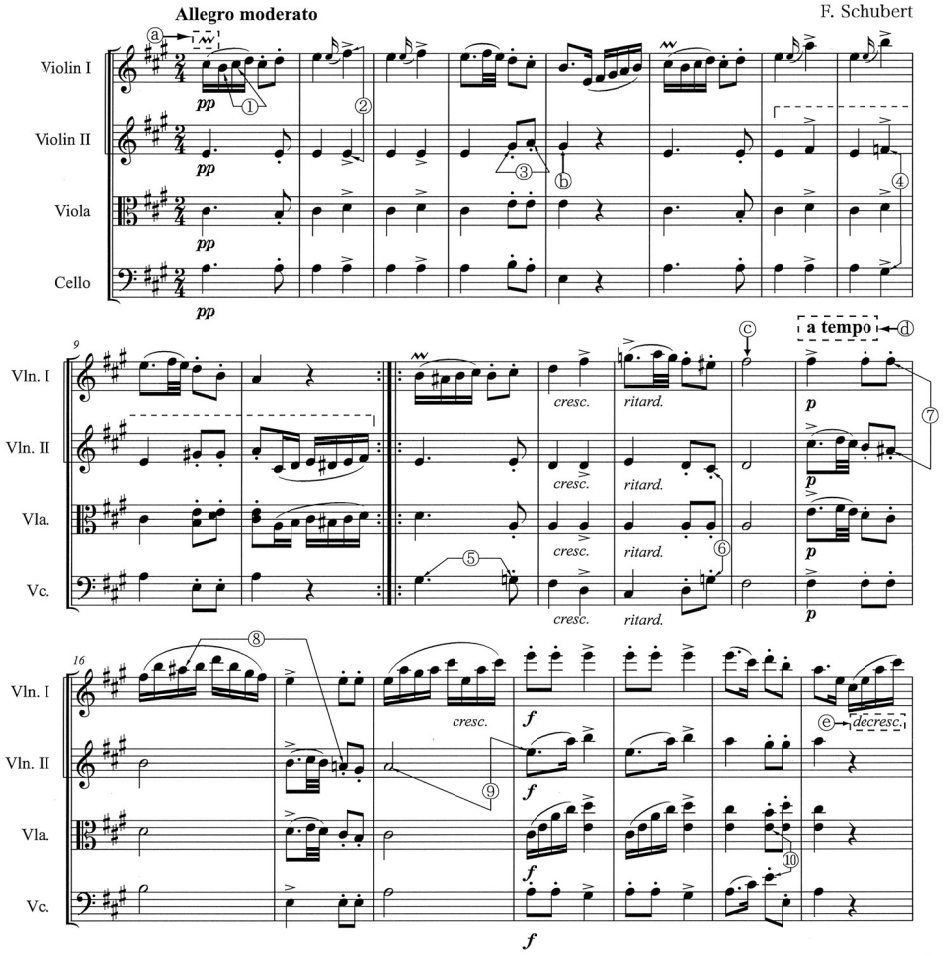
この冊子の過去問題集には模範解答が収録されていますが、原則として自分自身で答えを出してから参照してください。

＊「楽典」の出題傾向に最も適応しているテキストとして、『**明解新楽典**』（音楽之友社発行）を推奨します。

第 101 回　　―楽典　課題Ⅰ―

【Ⅰ】次の楽譜を見て、以下の問いに答えなさい。

String Quartet no.13
D.804 4.mov.
F. Schubert



（1）次の文章の｛　｝の中から正しいものを選び、その番号（1・2・3）を記入しなさい。

イ）ⓐで示された記号の名称は、｛ 1. トリル　2. プラルトリラー　3. モルデント ｝である。

ロ）ⓑで示された音の異名同音は、｛ 1. as　2. ais　3. gis ｝である。

ハ）ⓒで示された音の異名同音は、gesと、｛ 1. eis　2. eisis　3. feses ｝である。

ニ）ⓓで示された楽語の意味は、｛ 1. 正確な速度で　2. ほどよい速さで　3. 元の速さで ｝である。

ホ）ⓔで示された楽語の意味は、｛ 1. だんだん弱く　2. やや弱く　3. だんだん遅く ｝である。

（2）①・②……⑩で示された２音間の音程を答えなさい。

（3）第７～10小節の┌- - - -┐で示されたヴァイオリンⅡのパートを、長３度高く、調号を用いないで移調しなさい。

【Ⅱ】以下の文章の（　）内にふさわしい語句を下欄から選び、その番号を記入しなさい。

1）（ア）時代には、声楽の分野で（イ）やオラトリオ、カンタータなどが発展する一方で、器楽の分野では協奏曲、組曲、（ウ）などが数多く書かれた。この時代を代表する作曲家のひとりであるヴィヴァルディは（エ）で生まれ、ヴァイオリン協奏曲「（オ）」を作曲した。

2）（カ）時代の代表的な作曲家のひとりであるベルリオーズは（キ）で生まれ、自らを（ク）の後継者と認め、標題交響曲である「（ケ）」を作曲した。（コ）としても活躍したリストは交響詩を確立した。

1. バロック	2. 古典派	3. ロマン派	4. 練習曲
5. ソナタ	6. オペラ	7. 水上の音楽	8. 四季
9. 革命交響曲	10. 幻想交響曲	11. バッハ	12. ベートーヴェン
13. イタリア	14. フランス	15. ドイツ	16. ヴァイオリニスト　17. ピアニスト

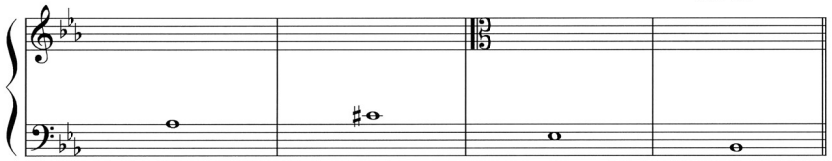
第101回　－楽典　課題Ⅰ－

【Ⅲ】

（1）次の各音の上方、または下方に指示された音程をつくりなさい。
ただし、与えられた譜表上に記入すること。

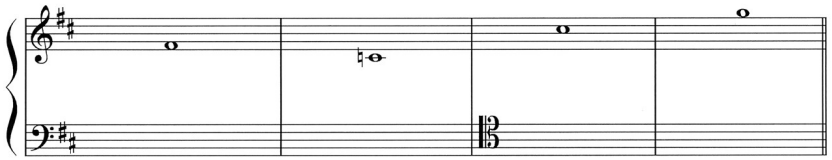
イ）上方につくりなさい。

1.　完全４度　　2.　短６度　　3.　長７度　　4.　１オクターヴと減５度

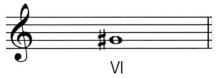


ロ）下方につくりなさい。

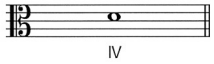
1.　増３度　　2.　重減５度　　3.　重増７度　　4.　２オクターヴと短３度



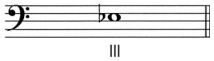
（2）次に与えられた各音を、それぞれ指示された音階構成音とする調を調号と主音で示しなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形によるものとする。

1. 

を下中音（Ⅵ）とする短調

2. 

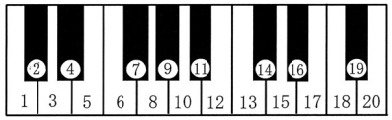
を下属音（Ⅳ）とする長調

3. 

を中音（Ⅲ）とする短調

第 101 回　　－楽典　課題Ⅱ－

【Ⅰ】次の鍵盤図を見て、下の問いに答えなさい。



(1)　鍵盤番号によって示された２音が、指示された音程や調の音階構成音であるとき、それぞれに該当する調名、または音程名を例にならって記入しなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。

例

鍵盤番号	4 － 7	
調　名	変ホ短調	
音程名	度	増２度

→

例解

鍵盤番号	4 － 7	
調　名	変ホ短調	ト短調
音程名	短３度	増２度

1.

鍵盤番号	5 －13	
調　名	ヘ長調	
音程名	度	増５度

2.

鍵盤番号	3 － 12		
調　名	ハ短調		
音程名	度	減７度	

3.

鍵盤番号	5 － 11			
調　名				ロ長調
音程名	減５度			度

(2)　鍵盤番号 5・9・11・19 を音階構成音として含む音階の調名を答えなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形の構成音によるものとする。

(3)　鍵盤番号 2・4・8・11 によって示された和音が V_7 の和音の構成音となるときの調名を答えなさい。

【Ⅱ】次の文章中の［　　］内に該当する調名、または調関係を示す語を記入しなさい。

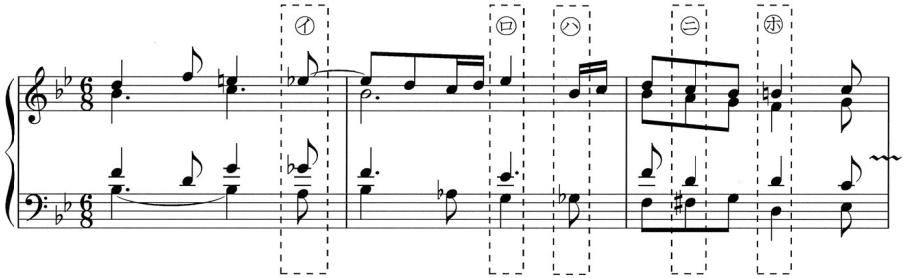
(1)　ホ短調（e moll）の属調の平行調は、［　　］である。

(2)　ヘ長調（F dur）の下属調の同主調は、［　　］である。

(3)　変ト長調（Ges dur）の［　　］は、変ホ短調の下属調である。

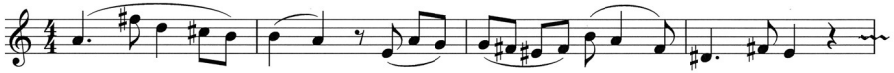
(4)　嬰ハ短調（cis moll）の下属調の同主調は、変ト長調（Ges dur）の［　　］である。

【Ⅲ】次の楽譜中 ㋑・㋺…㋭ で示された和音のひびきの種類（長三和音・短三和音…）を答えなさい。

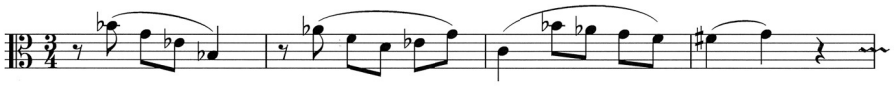


【Ⅳ】次の旋律の調名を答えなさい。

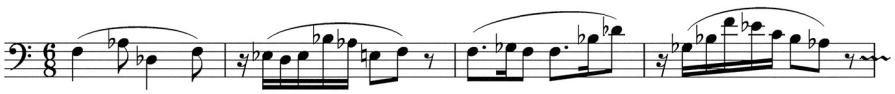
(1)



(2)



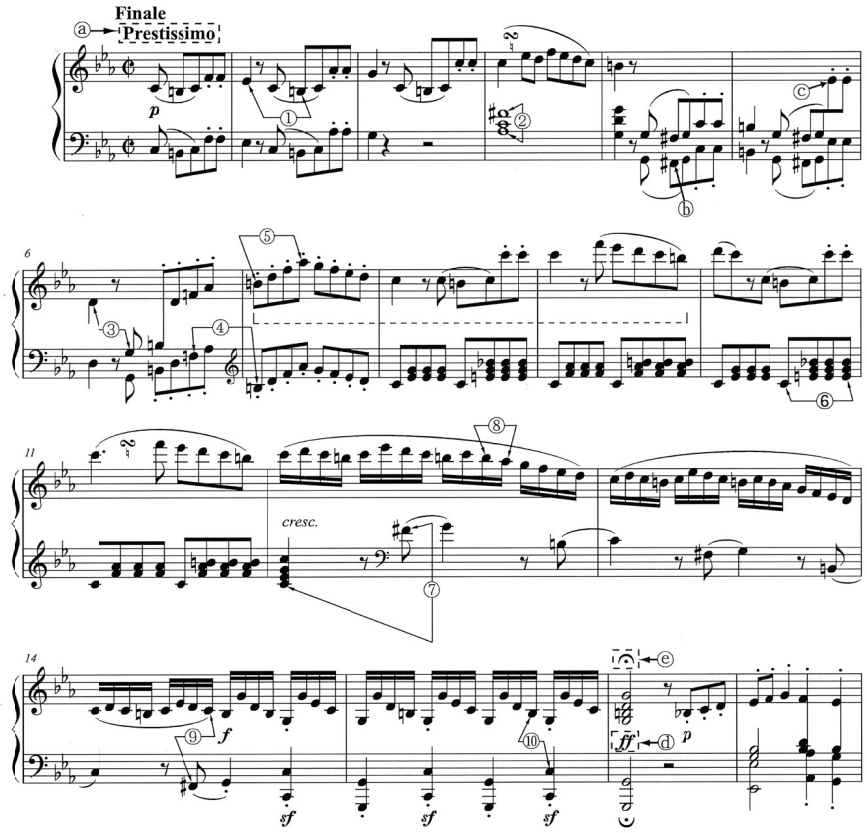
(3)



第 102 回　　―楽典　課題Ⅰ―

【Ⅰ】次の楽譜を見て、以下の問いに答えなさい。

Piano Sonata no.5 mov.4
L.v. Beethoven



（1）次の文章の｛　｝の中から正しいものを選び、その番号（1・2・3）を記入しなさい。

イ）ⓐで示された楽語の意味は、｛ 1.　きわめて速く　2.　やや快速に　3.　きわめて遅く ｝である。

ロ）ⓑで示された音の異名同音は、｛ 1.　fis　2.　ges　3.　gis ｝である。

ハ）ⓒで示された音の異名同音は、disと、｛ 1. fes　2. feses　3. es ｝である。

ニ）ⓓで示された記号の意味は、｛ 1.　きわめて強く　2.　一部分だけ特に強く　3.　強く、すぐ弱く ｝である。

ホ）ⓔで示された記号の名称は、｛ 1.　マルカート　2.　テヌート　3.　フェルマータ ｝である。

（2）①・②……⑩で示された２音間の音程を答えなさい。

（3）第７～９小節の|------|で示された旋律を、完全５度低く、調号を用いないで移調しなさい。

【Ⅱ】以下の文章の（　）内にふさわしい語句を下欄から選び、その番号を記入しなさい。

1）1750年頃から1820年頃までは（　ア　）時代である。この時代の代表的な作曲家の１人モーツァルトは、短い生涯のなかで多くの作品を作曲し、オペラの分野では「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「（　イ　）」を残した。ドイツのボンに生まれた（　ウ　）は22歳の時に（　エ　）に出て、生涯をこの地で終えた。彼の代表作には、ピアノ・ソナタ第23番「（　オ　）」のほかに、交響曲第3番「英雄」などがある。

2）（　カ　）時代のオペラの代表的な作曲家にワーグナーとヴェルディがいるが、２人とも（　キ　）年に生まれた。ワーグナーは（　ク　）という新しいジャンルを確立し、そのなかに「（　ケ　）」という作品がある。ヴェルディは「（　コ　）」などのオペラを作曲した。

1. ハノドン	2. ベートーヴェン	3. 古典派	4. ロマン派
5. ザルツブルク	6. ウィーン	7. 1810	8. 1813
9. 1815	10. 交響詩	11. 楽劇	12. ニーベルングの指環
13. 熱情	14. オテロ	15. 魔笛	

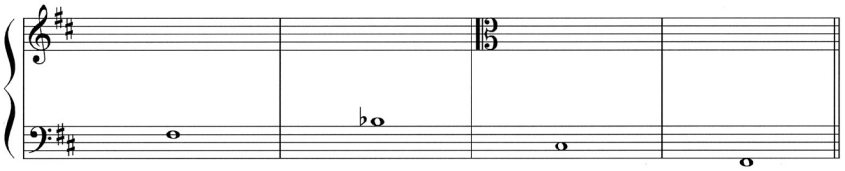
第 102 回　　－楽典　課題Ⅰ－

【Ⅲ】

（1）次の各音の上方、または下方に指示された音程をつくりなさい。
　　ただし、与えられた譜表上に記入すること。

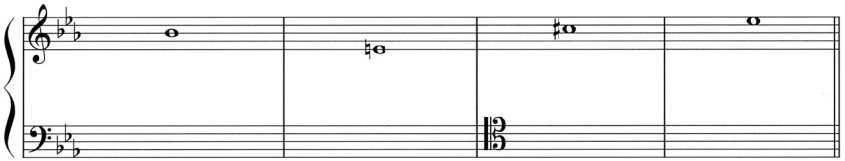
イ）上方につくりなさい。

1.　完全５度　　2.　長２度　　3.　短６度　　4.　１オクターヴと完全４度

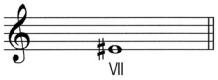


ロ）下方につくりなさい。

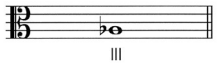
1.　減７度　　2.　重減４度　　3.　短10度　　4.　２オクターヴと長３度



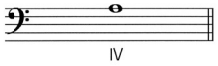
（2）次に与えられた各音を、それぞれ指示された音階構成音とする調を調号と主音で示しなさい。
　　ただし、短調は旋律短音階上行形によるものとする。

1.　 

を導音（Ⅶ）とする短調

2.　 

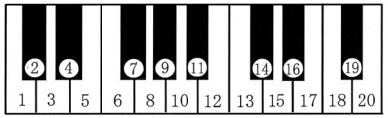
を中音（Ⅲ）とする短調

3.　 

を下属音（Ⅳ）とする長調

第 102 回　　－楽典　課題Ⅱ－

【Ⅰ】次の鍵盤図を見て、下の問いに答えなさい。



(1)　鍵盤番号によって示された２音が、指示された音程や調の音階構成音であるとき、それぞれに該当する調名、または音程名を例にならって記入しなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。

例

鍵盤番号	9 － 18	
調　名	へ短調	
音程名	度	減７度

→

例解

鍵盤番号	9 － 18	
調　名	へ短調	イ短調
音程名	長６度	減７度

1.

鍵盤番号	2 －6	
調　名	変ロ短調	
音程名	度	減４度

2.

鍵盤番号	5 － 8		
調　名	ロ短調		
音程名	度	増２度	

3.

鍵盤番号	8 － 14			
調　名				へ短調
音程名	増４度			度

(2)　鍵盤番号 7・9・12・15 を音階構成音として含む音階の調名を答えなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形の構成音によるものとする。

(3)　鍵盤番号 4・8・12 によって示された和音がⅢの和音の構成音となるときの調名を答えなさい。

【Ⅱ】次の文章中の［　　］内に該当する調名、または調関係を示す語を記入しなさい。

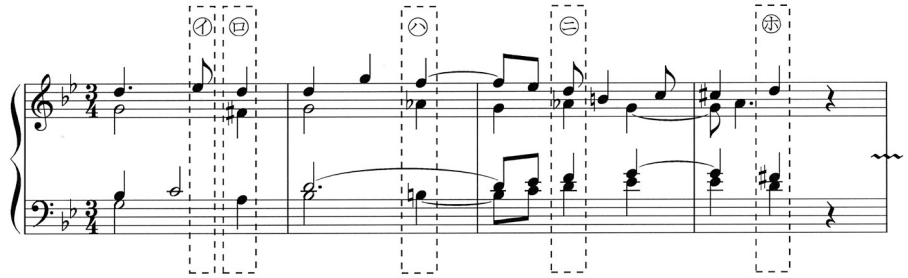
(1)　イ長調（A dur）の下属調の平行調は、［　　］である。

(2)　変イ短調（as moll）の属調の同主調は、［　　］である。

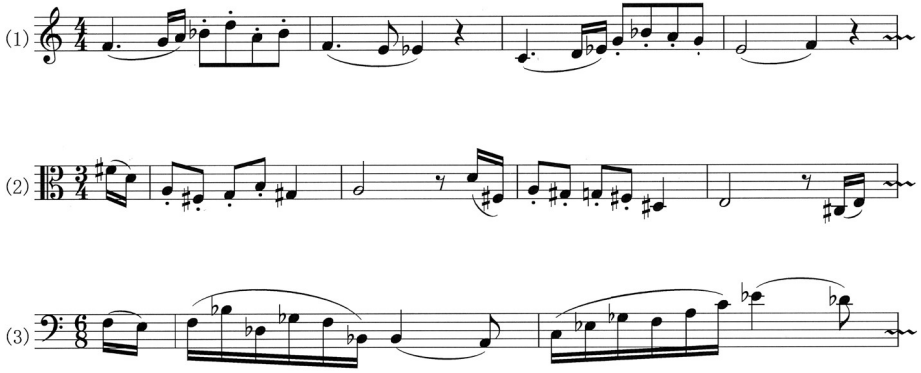
(3)　嬰ハ長調（Cis dur）の［　　］は、嬰ト短調の下属調である。

(4)　変イ短調（as moll）の属調の平行調は、嬰ヘ長調（Fis dur）の［　　］である。

【Ⅲ】次の楽譜中 ㋑・㋺…㋭ で示された和音のひびきの種類（長三和音・短三和音…）を答えなさい。

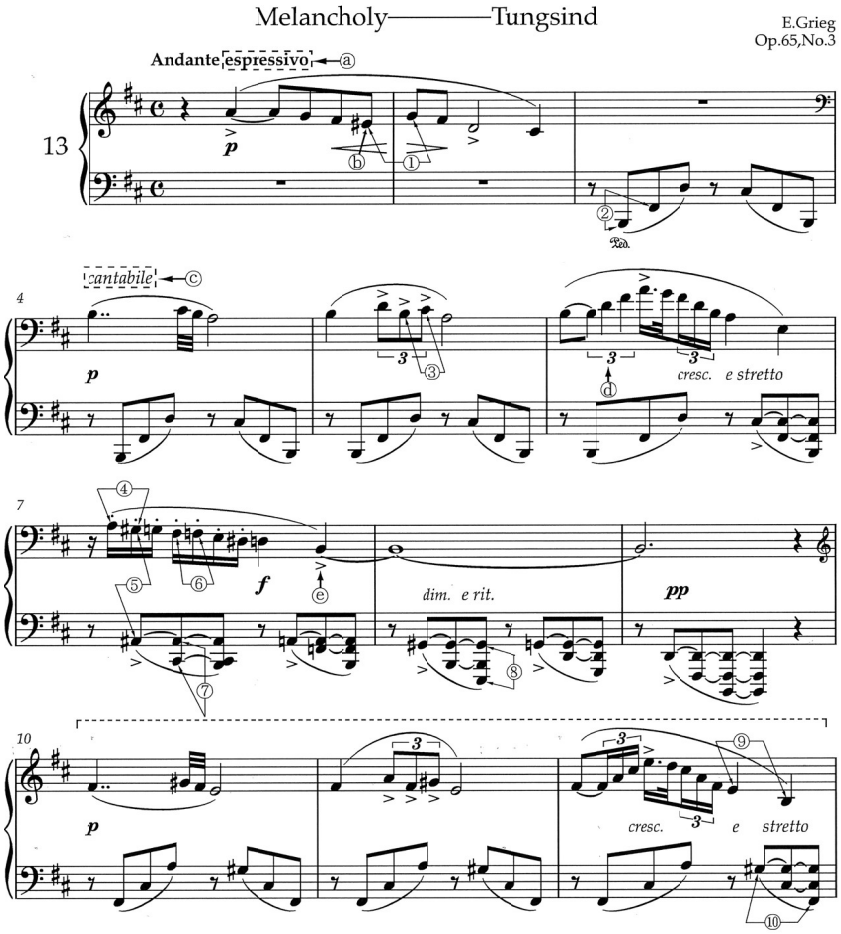


【Ⅳ】次の旋律の調名を答えなさい。



第 103 回　　－楽典　課題Ⅰ－

【Ⅰ】次の楽譜を見て、以下の問いに答えなさい。



（1）次の文章の｛　｝の中から正しいものを選び、その番号（1・2・3）を記入しなさい。

イ）ⓐで示された楽語の意味は、｛ 1. 表情豊かに　2. 優美に　3. 重々しく ｝である。

ロ）ⓑで示された音の異名同音は、fと｛ 1. fis　2. eis　3. geses ｝である。

ハ）ⓒで示された楽語の意味は、｛ 1. 激しく　2. 歌うように　3. 軽く ｝である。

ニ）ⓓで示された連符の完成させると、｛ 1.　2.　3. ｝となる。

ホ）ⓔで示された記号の名称は、｛ 1. マルカート　2. アクセント　3. フェルマータ ｝である。

（2）①・②……⑩ で示された２音間の音程を答えなさい。

（3）第10～12小節の┌------┐で示された旋律を、増１度低く、調号を用いないで移調しなさい。

【Ⅱ】以下の文章の（　）内にふさわしい語句を下欄から選び、その番号を記入しなさい。

1）（ア）時代に誕生したオペラなど歌詞をともなう作品では、（イ）と呼ばれる語るような旋律を和声的な伴奏で支える様式が発生した。そこから（ウ）と呼ばれる技法が発達した。（ウ）では、通常、即興的に右手で和音を補って弾く（エ）という鍵盤楽器と、チェロなどの（オ）旋律楽器で演奏される。

2）（カ）時代には、（キ）はドイツ・リートのジャンルを成熟させ、「冬の旅」や「（ク）」といった歌曲集を作曲した。またこの時代に活躍した（ケ）は「子供の情景」や「（コ）」といった性格的小品による曲集を残した。

1. バロック	2. 古典派	3. ロマン派	4. ショパン
5. シューマン	6. シューベルト	7. 高音	8. 低音
9. 皇帝	10. 謝肉祭	11. 美しい水車小屋の娘	12. ピアノ
13. チェンバロ	14. 通奏低音	15. レチタティーヴォ	

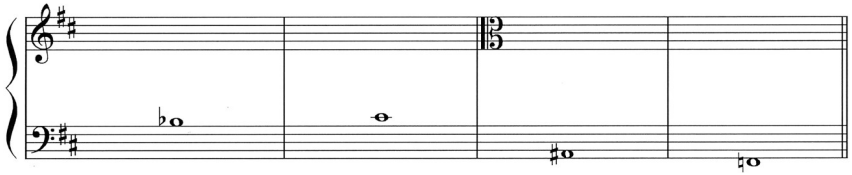
第 103 回　　－楽典　課題Ⅰ－

【Ⅲ】

（1）次の各音の上方、または下方に指示された音程をつくりなさい。
　　ただし、与えられた譜表上に記入すること。

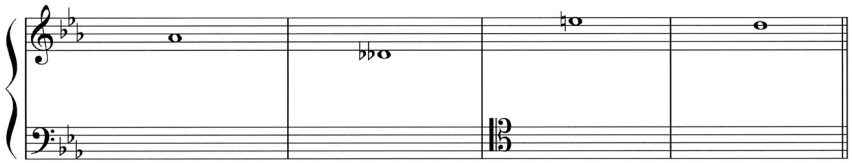
イ）上方につくりなさい。

1.　完全５度　　2.　増１度　　3.　短10度　　4.　１オクターヴと減７度

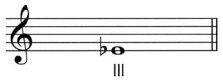


ロ）下方につくりなさい。

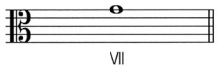
1.　増４度　　2.　重減４度　　3.　２オクターヴと増２度　　4.　短７度



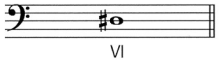
（2）次に与えられた各音を、それぞれ指示された音階構成音とする調を調号と主音で示しなさい。
　　ただし、短調は旋律短音階上行形によるものとする。

1.　 

を中音（Ⅲ）とする短調

2.　 

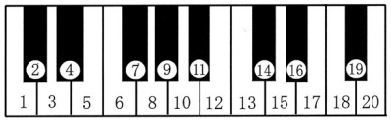
を導音（Ⅶ）とする長調

3.　 

を下中音（Ⅵ）とする短調

第 103 回　　－楽典　課題Ⅱ－

【Ⅰ】次の鍵盤図を見て、下の問いに答えなさい。



(1)　鍵盤番号によって示された２音が、指示された音程や調の音階構成音であるとき、それぞれに該当する調名、または音程名を例にならって記入しなさい。ただし、短調は和声短音階の構成音によるものとする。

例

鍵盤番号	4 － 7	
調　名	ホ長調	
音程名	度	増２度

→

例解

鍵盤番号	4 － 7	
調　名	ホ長調	ト短調
音程名	短３度	増２度

1.

鍵盤番号	6 －14	
調　名	嬰ハ長調	
音程名	度	増５度

2.

鍵盤番号	3 － 12		
調　名	イ長調		
音程名	度	減７度	

3.

鍵盤番号	10 － 16			
調　名				
音程名	減５度			

(2)　鍵盤番号 10・13・17・19 を音階構成音として含む音階の調名を答えなさい。
ただし、短調は旋律短音階上行形の構成音によるものとする。

(3)　鍵盤番号 3・6・9 によって示された和音がⅡ、あるいはⅦの和音の構成音となるときの調名を答えなさい。

【Ⅱ】次の文章中の［　　］内に該当する調名、または調関係を示す語を記入しなさい。

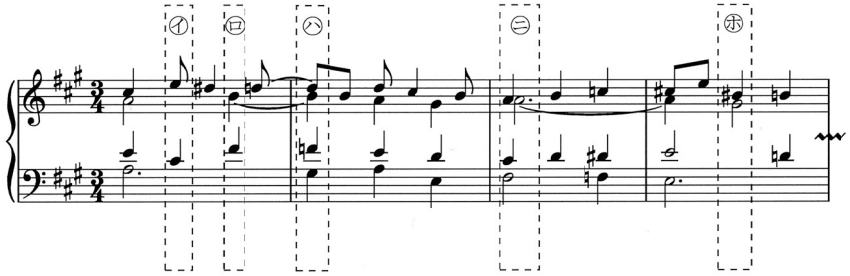
(1)　ト短調（g moll）の属調の同主調は、［　　］である。

(2)　変ホ長調（Es dur）の下属調の平行調は、［　　］である。

(3)　嬰ヘ長調（Fis dur）の［　　］は、ホ短調の属調である。

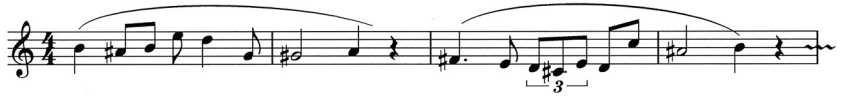
(4)　変ホ短調（es moll）の下属調の平行調は、ロ長調（H dur）の［　　］である。

【Ⅲ】次の楽譜中 ㋑・㋺…㋭ で示された和音のひびきの種類（長三和音・短三和音…）を答えなさい。

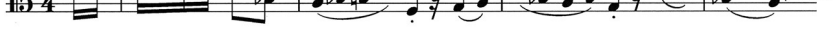


【Ⅳ】次の旋律の調名を答えなさい。

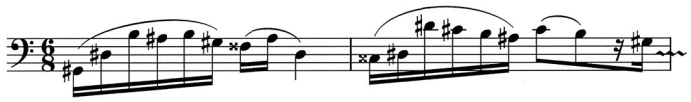
(1)



(2)



(3)



第 101 回　―楽典 課題Ⅰ―　（模範解答）

【Ⅰ】

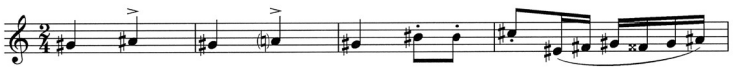
（1）

	イ)	ロ)	ハ)	ニ)	ホ)
番号	2	1	2	3	1

（2）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
音程名	長2度	長9度（1オクターブと長2もしくは）	短2度	減7度	増1度	増4度	短6度	増8度（1オクターブと増1もしくは）	完全5度	完全1度

（3）　スラーや強弱、アーティキュレーションに関する記号、及び( )入り臨時記号の有無は不問。



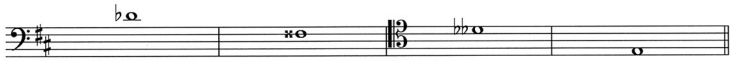
【Ⅱ】

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1	6	5	13	8	3	14	12	10	17

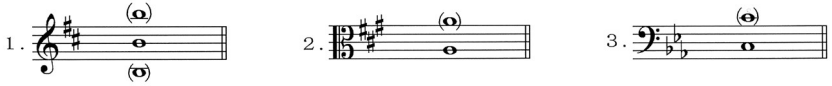
【Ⅲ】

（1）イ）1.　2.　3.　4.

ロ）1.　2.　3.　4.



（2）



第 101 回　―楽典 課題Ⅱ―　（模範解答）

【Ⅰ】

（1）

1.

鍵盤番号	5 - 13	
調名	ヘ長調	嬰ハ短調 cis moll, cis:
音程名	短6度	増5度

2.　（順不同）

鍵盤番号	3 - 12		
調名	ハ短調	変ホ短調 es moll, es:	嬰ニ短調 dis moll, dis:
音程名	長6度	減7度	

3.　（順不同）

鍵盤番号	5 - 11			
調名	ヘ長調 F dur, F:	ヘ短調 f moll, f:	ニ短調 d moll, d:	ロ長調
音程名	減5度			増4度

（2）（順不同）

調名	ロ長調 H dur, H:	変ハ長調 Ces dur, Ces:	嬰ハ短調 cis moll, cis:	ロ短調 h moll, h:

（3）（順不同）

調名	変イ長調 As dur, As:	変イ短調 as moll, as:	嬰ト短調 gis moll, gis:

【Ⅱ】

	(1)	(2)	(3)	(4)
調名または調関係	ニ長調 D dur, D:	変ロ短調 b moll, b:	下属調の平行調	異名同音調

【Ⅲ】

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭
ひびきの種類	減七の和音	長三和音	短三和音	属七の和音	減三和音

【Ⅳ】

	(1)	(2)	(3)
調名	ニ長調 D dur, D:	変ホ長調 Es dur, Es:	変ニ長調 Des dur, Des:

第 102 回　－楽典 課題Ⅰ－　（模範解答）

【Ⅰ】

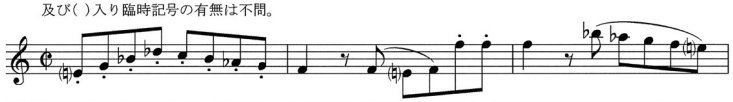
（1）

	イ）	ロ）	ハ）	ニ）	ホ）
番号	1	2	2	1	3

（2）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
音程名	減 4 度	増 6 度	完全 5 度	増 4 度	減 7 度	長 3 度	増 4 度	増 2 度	減 12 度（1）オクターブと減5もしくは	長 7 度

（3）　スラーやアーティキュレーションに関する記号、
及び( )入り臨時記号の有無は不問。

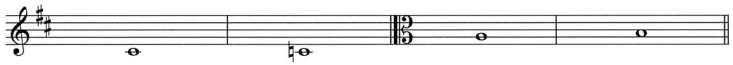


【Ⅱ】

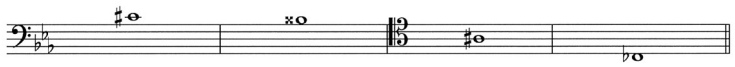
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
3	15	2	6	13	4	8	11	12	14

【Ⅲ】

（1）　イ）　1.　2.　3.　4.

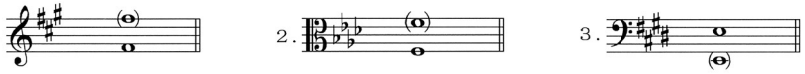


ロ）　1.　2.　3.　4.



（2）

1.　2.　3.



第 102 回　－楽典 課題Ⅱ－　（模範解答）

【Ⅰ】

（1）

1.

鍵盤番号	2 － 6	
調　名	変ロ短調	ニ短調 d moll, d:
音程名	長 3 度	減 4 度

2.　順不同

鍵盤番号	5 － 8		
調　名	ロ短調	変イ短調 as moll, as:	嬰ト短調 gis moll, gis:
音程名	短 3 度	増 2 度	

3.　順不同

鍵盤番号	8 － 14			
調　名	ニ長調 D dur, D:	ロ短調 h moll, h:	ニ短調 d moll, d:	ヘ短調
音程名	増 4 度			減 5 度

（2）　順不同

調名	イ長調 A dur, A:	イ短調 a moll, a:	ロ短調 h moll, h:

（3）　順不同

調名	ハ短調 c moll, c:	ホ短調 e moll, e:	変イ短調 as moll, as:	嬰ト短調 gis moll, gis:

【Ⅱ】

	（1）	（2）	（3）	（4）
調名または調関係	ロ短調 h moll, h:	変ホ長調 Es dur, Es:	同主調	異名同音調

【Ⅲ】

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭
ひびきの種類	短三和音	属七の和音	減七の和音	減三和音	長三和音

【Ⅳ】

	（1）	（2）	（3）
調名	変ヨ長調 B dur, B:	ニ長調 D dur, D:	変ロ短調 b moll, b:

第 103 回　―楽典 課題Ⅰ―　（模範解答）

【Ⅰ】

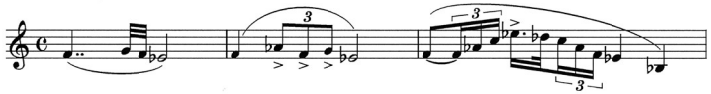
（1）

	イ）	ロ）	ハ）	ニ）	ホ）
番号	1	3	2	3	2

（2）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
音程名	減3度	完全5度	長2度	短2度	短7度	増1度	長6度	長10もしくは（1）オクターブと長3度	完全4度	長9もしくは（1）オクターブと長2度

（3）　符尾の向き、スラーやアーティキュレーションに関する記号の有無は不問。

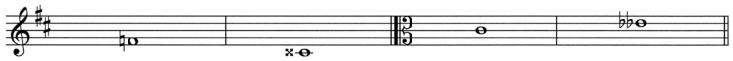


【Ⅱ】

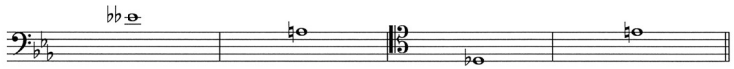
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1	15	14	13	8	3	6	11	5	10

【Ⅲ】

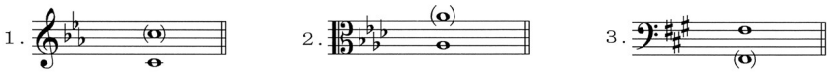
（1）　イ）　1.　2.　3.　4.



ロ）　1.　2.　3.　4.



（2）



第 103 回　―楽典 課題Ⅱ―　（模範解答）

【Ⅰ】

（1）

1.

鍵盤番号	6 － 14	
調名	嬰ハ長調	ニ短調 d moll, d:
音程名	短6度	増5度

2.　順不同

鍵盤番号	3 － 12		
調名	イ長調	変ホ短調 es moll, es:	嬰ニ短調 dis moll, dis:
音程名	長6度	減7度	

3.　順不同

鍵盤番号	10 － 16			
調名	変ロ長調 B dur, B:	ト短調 g moll, g:	変ロ短調 b moll, b:	嬰イ短調 ais moll, ais:
音程名	減5度			

（2）　順不同

調名	ト長調 G dur, G:	ト短調 g moll, g:	イ短調 a mcll, a:

（3）　順不同

調名	変ホ長調 Es dur, Es:	変ホ短調 es moll, es:	嬰ニ短調 dis mcll, dis:	ハ短調 c moll, c:

【Ⅱ】

	（1）	（2）	（3）	（4）
調名または調関係	ニ長調 D dur, D:	ヘ短調 f moll, f:	下属調の同主調	異名同音調

【Ⅲ】

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭
ひびきの種類	長三和音	属七の和音	減七の和音	短三和音	増三和音

【Ⅳ】

	（1）	（2）	（3）
調名	ト長調 G dur, G:	変ロ長調 B dur, B:	嬰ト短調 gis moll, gis: